

Pione「ピオネ」

Vol.1

真庭市地域おこし協力隊
×
真庭のバイオニア達

近藤会長 × 木藤隊員／おしごとずかん〜樹木医〜／真庭今昔物語（うえのこうげ）

真庭の昼食から〜勝山 きくや菓舗〜／つれづれなるままによしはら「空き家問題って？」etc…



#三極
#遊びの達人
#プレーパーク



#虫
#自然
#自転車



#廃校
#美容
#子育て



#木
#共育
#はにわの森



#農業
#不動産
#富乃亭



#福祉
#文化芸能
#共生社会



#食
#カレー
#スパイス



#美甘
#菓細工
#ホタルかご



#狩猟
#ジビエ
#獣害対策

Special interview

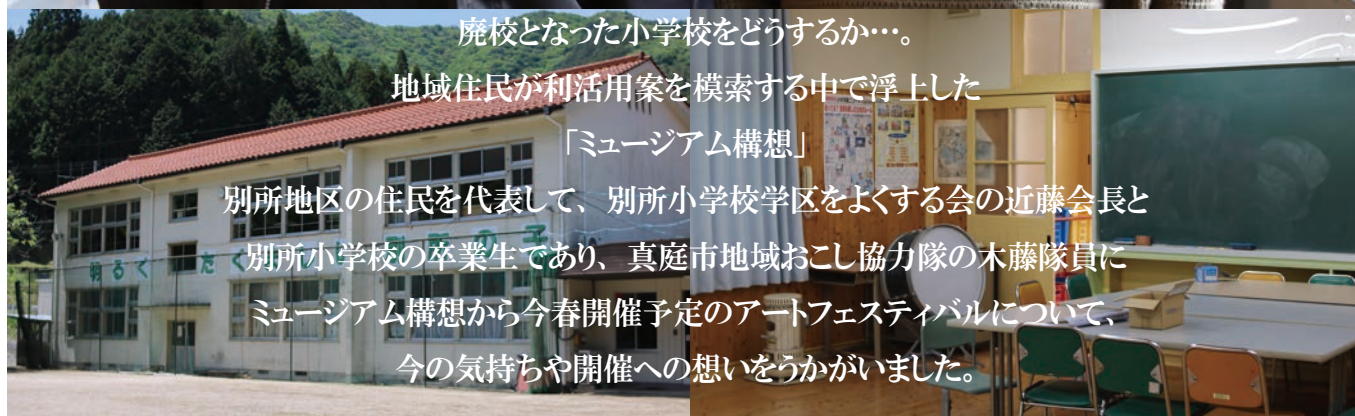
〇〇〇×協力隊員



～廃校をミュージアムに～ 近藤正男×木藤千春

別所小学校学区をよくする会 会長

真庭市地域おこし協力隊



廃校となった小学校をどうするか…。

地域住民が利活用案を模索する中で浮上した

「ミュージアム構想」

別所地区の住民を代表して、別所小学校学区をよくする会の近藤会長と
別所小学校の卒業生であり、真庭市地域おこし協力隊の木藤隊員に
ミュージアム構想から今春開催予定のアートフェスティバルについて、
今の気持ちや開催への想いをうかがいました。

—いよいよ、二〇二〇年四月に開催となるマニワートミュージアムプロジェクトの第一弾、マニワートフェスティバルですが、開催に向けて、今の率直な気持ちを教えてください。

木藤 醍醐桜と一緒に別所地区で楽しんでもらえるように何かのスタートアップになればいいなと思います。

近藤 醍醐桜以外にこの別所には立ち寄れるようなところが今までなかったが、この施設ができることによって、多くの人に来てもらえる場所になれば一番良いなと思います。

—マニワートフェスティバルの概要を教えてください。

木藤 真庭市をはじめ、県内外から参加するアーティストによるアートの展覧会です。アートを直接体験できるワークショップやアーティスト達のオリジナルグッズを購入できるミュージアムショップなど、さまざまなコンテンツを準備しようと思っています。お子様から高齢者の方まで全ての人が楽しめるアートイベントを開催する予定です。

—別所地区についての現状を教えてください。

近藤 よくする会を中心にいろいろな地域活動をする中で人の手が足りないことや高齢者が多くなってきたことがこの地区の現状であり、課題でもあります。

—別所地区では小学校の活用についていろいろと検討されていたと聞きましたが。



近藤 地元では協議を重ねて、なんとか残すようなことができないか、と話をしていました。いろいろな意見が上がり、協議した中で、今の形になりました。

「ミュージアム案」、初めて聞いた時のお気持ち

近藤 我々では想像がつかない話でした。ただ、人がやらないことをやらないと魅力もないわけで、良いところに目を付けてくれました。初めてというところに魅力があり、大変ありがたいと思いました（笑）地区のみんなもそのつもりで協力するようになりました。

「ミュージアム」の構想はどのようにして浮かびましたか？

木藤 以前、富原地区にあるNPO法人灯心会の就労継続支援B型事業所スカイハート灯さんに訪問した際にアート作品を制作されているアトリエを拝見しました。その時に、真庭にもこんなに素晴らしいアートがあるというのを感じました。この作品を多くの人に知ってもらいたいと思ったのが一番のきっかけでした、そして、富原地区と別所は比較的近い地域なので、地域を越えて連携をとれることはすごくいいことではないかと考えました。

「構想から今日までの道のりを教えてください」

い。

木藤 まず地域の人達にこの構想の話をし、具体的に構想を練りました。また、落合振興局と「よくする会」との協議も重ね、住民会での話し合いも進めました。その中で別所地区の方の負担が少ないように、考えながら進めることは必要だと思いました。今は地元の方は醍醐桜の準備で忙しいので、学校の事と醍醐桜の事を分担し、協力し合いながら活動を進めています。また、岡山県立大学の学生さん達にも協力してもらっています。

近藤 別所の住民会ではこの構想に反対する人もいましたが、実際はどちらでも良いという人が多かったです。でも、この構想を話したときに「すばらしい」と手を叩いて喜んでくれた人も現れました。今は反対していた人も少しずつ活動を気にしてくれています。資金面での目処が付いたことも良かったかなと思います。この構想がなければ、小学校は残っていなかったかもしれないです。

「フェスティバル開催にあたり、どのような方に来てもらいたいですか」

木藤 どんな方も来てほしいです（笑）醍醐桜しかないと思っている人や醍醐桜に行き飽きたと思っている人に、「醍醐桜だけじゃないよ」「別所で楽しめるよ」ということを感じてもらえるようにしたいですね。



「フェスティバル開催後の展望を教えてください」

木藤 小学校の校舎自体は残ることが決まりましたが、体育館は老朽化などの影響から取り壊される予定と聞きました。ですので、体育館のお別れも込めて、今回は体育館で開催します。来年度からは校舎での開催を予定しています。

春の時期を中心にアートイベントを開催しながら、春の時期以外は地域外の人も来て、交流や体験教室ができる場所にしていきたいです。また、近隣の市町村でのアートイベントとも連携ができるようになればいいですね。春だけではない別所地区になればいいなと思いますよね、会長（笑）

近藤 そうなることが一番いいですね。やらないと前には進まないからね。体験教室をやったり、講師を呼んだりして、地元内外から人が来て、交流ができるようになれば、人が多く集まるようになるかなと思います。そうなれば、またいろいろと活動できるようになりますね。そして、「醍醐桜だけではない別所」をPRしていけるかなと思います。

「では、最後にメッセージをお願いします」

近藤 一つでも多く立ち寄れるところが出て、見に来られる方が一人でも多く来てくれることが一番嬉しいですね。以前「醍醐桜は渋滞するだけの所だ」と言われたこともあるので、桜や力タクリだけでなく、ミュージアムも見てもらえたら嬉しいですね。醍醐桜だ

けではない別所を見に来てもらえたら嬉しいです。

木藤 全てが初めてで手探りの事ばかりですが、醍醐桜も含めて、別所地区に「また来年も行きたいね」「また小学校に寄りたいね」と言われるような場所にしていきたいです。

「マニワートフェスティバル」

二〇二〇年四月四日（土）～十九日（土）

時間…午前十時～午後四時まで

場所…旧別所小学校体育館

住所…岡山県真庭市別所九の一

灯心会、アートグループmo、真庭市在住のイラストレーターや高梁市、横浜市などから総勢十～十五名のアーティストが参加予定。

近藤 正男（写真…左）

一九五四年真庭市佐引出身。二〇一六年に別所小学校学区をよくする会会長に就任。よくする会では地域の交流会やお祭りなどを開催している。

木藤 千春（写真…右）

一九八〇年真庭市別所出身。高校卒業後、進学で大阪に上京。就職、結婚、出産を経て、二〇一八年に真庭市に家族でUターン。同年に真庭市地域おこし協力隊に着任。



まにわの おしごとずかん

—真庭にもこんなお仕事あったんだ。
真庭にもこんな人がいたんだ。
知らないことはたくさんあります。
おしごとずかんが職業選択の一つに
なりますように。



～樹木医～

まにわのおしごとずかん。人口約四万五千

人の岡山県真庭市。この真庭市にもなかなか知られていないおしごとや名前は知っているけど、どんなことをするおしごとなのか知らない、そんなおしごとがたくさんあります。

「まにわのおしごとずかん」は真庭市地域おこし協力隊が活動をする中で出会った珍しいおしごとや真庭の人も知らないおしごとに焦点をあて、取り上げていくコーナーです。このコーナーから「へえ、〇〇ってこんな仕事なんだ、すげえかつこええな」「真庭にもこんな仕事があったんだ、この仕事やってみてえな」そんな風に思ってもらえると嬉しいです。

都市部の華やかな仕事にも負けない素敵なおしごとが真庭にもある。だから真庭で暮らしても輝けることをこのコーナーを通して、読者の皆さんに届けたいと思います。

創刊号の「ピオネ」を飾る真庭の素敵なおしごと第一弾はズバリ……『樹木医』

真庭市を語る上で欠かすことのできないもの、それは木。その木と密接に関わる「樹木医」というおしごとについて、お話を伺いました。今回お話を伺ったのは真庭市出身で樹木医の資格を持つ山崎真理さん。樹木医というおしごとの内容や魅力についてたくさんお聞きしました。

それではそろそろ参りましょう。

—『樹木医』

このおしごとはどんなおしごとです。

—樹木医とはどんなお仕事ですか。

字の通り、木のお医者さんです。木といってもいろいろあって、人の役に立つ木という木材、街にある木や学校の木、公園の木など、木には沢山の役割があります。人々が求める美しさや役割が木にはありますが、その木が病気になるったり、木に求めている機能が損なわれたりしたときに、診断をして予防したり、治療したりするお仕事です。例えば、枯れて葉っぱが落ちてしまう木や、枝が枯れて子どもに当たる恐れのある危険な木を診断し、予防したり、治療したりすることが樹木医の仕事です。特に真庭市は林業が盛んで、木が身の回りにあるけれど、その木を治療するということはあまり思わないですよ。でもちよつと考えてみたら、自分たちが植えている木が枯れていたり、葉っぱが落ちていたら、どうしたんだろうと心配し、治そうとしますよね。そういった事を専門的に勉強して、アドバイスすることや実際に診断して治療することが樹木医の仕事の一つです。病気の原因は多岐にわたっているんで、木の全体の様子や肥料の量、水や土の状態など、周りの環境を調べて、診断をします。

—樹木医になるには？

木の診断や治療、育成に関わる仕事の経験年数が七年以上あり、資格試験を受けて合格すれば、樹木医になれます。（※詳しくは一般財団法人日本緑化センター樹木医制度を参照）真庭市にも私以外にもう一人樹木医さんがいます。

樹木医の資格自体は平成三年にできた資格で、岡山県には二十数名の樹木医がいます。真庭は木にすごく近いまちであるので、深い知識を持った造園業、林業などの方々もおられます。そういう方にも、ぜひ取得していただきたい資格ですし、木が大好きで、もつといるいろと木のことを知り、仕事に役立てたい、という方にぜひ目指して欲しい資格です。

樹木医の良いところは大学での最新の研究や全国の樹木医の実践を共有できる研修制度や冊子があるところです。なので今まで理系でもなく、林業の学校にも行っていない人でも勉強を継続していけるところが良いですね。

岡山県では造園業や緑化会社、苗木生産の方などが樹木医としていらっしやいます。樹木医の人数は今までは都市に圧倒的に多くて、都市中心の資格のように思われがちですが、木や森林に対して求められる役割が多様になってきているので、これから、地方ならではの求められる樹木医の役割は大きくなっていくと思います。NPO法人岡山県樹木医会では、木の講座などのイベントも行っています。

―現実的な話ですが、樹木医の月収は？

私の知る範囲ですが、木に関わる仕事をもととされていて、それを続けながら樹木医をしている方が多いので、樹木医単独での月収というような計算は難しいかなと思います。基本的には、依頼を受けて樹木の診断を

したり、治療を行うことへの対価として支払っていたくものが収入になります。資格取得でそれまでの仕事から収入をあげていくことにはつながりますし、仕事の幅は確実に広がると思います。

―現在、コケテラリウムのワークショップなどをされていると聞きましたが、それは樹木医からの繋がりでですか。

元々、森づくりをしたいというのが一番の夢でした。林業もそうですが、山の環境を整えて、豊かな森にしたいな、という思いがありました。山の中に行けば木だけではなく、いろいろなものが生えていますよね。豊かさにはいろいろな種類があつて、多様であることが一番にあるじゃないですか。ふわーっと森を歩いていると気が付かないですが、全部緑のじゅうたんに見えるけど、近づくとも実は色々な種類があるんです。森づくりしたいのにコケばかり見てしまったら（笑）コケを見て、森を見ずみたいな……（笑）

単純な人工林でもいろいろな生き物が生きているということを山に入るようになって初めて気が付いた、そういうことをみんなに伝えたいです。知ってほしいみたいな、だからコケをやっているんです（笑）

コケテラリウムに関しては、コケを普及したいという思いと、豊かな山の産物が収入源になれば、山の豊かさに注目してもらえるかなど。そこまではまだ至っていないですが（笑）

―豊かさという言葉が出ましたが、山崎さんの考える豊かさとはなんですか。

すごい質問ですね（笑）豊かさということだと、知らないことを知っていくことでいっしょに豊かになる。木で言うと最初言ったように、材木であつたり、庭木であつたり、街路樹であつたり、それぞれみんなが求めている役割があつて、人間も同じであるかなと。そういうことを知ることが豊かさなのかなと。

―山崎さんが考える樹木医の魅力は？

単純に治療した木が元気になると嬉しいです。個人的に樹木医をやっている魅力は木を大切にされている方の依頼を受けて仕事ができることです。技術的なところだと、今は木こりの仕事もやっているのですが、木こりで培った技を活用して、治療することできていると嬉しいですね（笑）

―樹木医に必要な資質や向いている人は？

木が好きであること。自然全般が好きであること。広い知識を求めている人が向いています。樹木にまつわるもの、虫や菌類もそう、いろいろな知識が求められますね。やはり多様性に興味のある人ですね。

海外では木を人間のパートナーとして大切にするので、そういう流れが今後、日本にも入ってくると思います。木と共に生きていく、日本人もずっとそうでしたが、そういった事が、より社会の中に求められていくのではなかなと思います。

―山崎さんの今後ますますの活躍を期待しています。貴重なお話、ありがとうございます。

こちらこそ、ありがとうございました。

―お話を聞いて

今回のお話から「多様性」という言葉に注目しました。現代は多様性に溢れています。木やコケも多様であり、それは人も同じである。多様なものが生きているからこそ、森も社会も成立する、ということをお話を通して感じました。共生社会の実現は並大抵の力では実現できませんが、少しの意識と気付きが世界を変える力になると信じています。

―「樹木医」

非常に興味深いお話をしました。山崎さん、ありがとうございました。

（協力隊 西本浩史）

山崎 真理

岡山県真庭市出身。京都府で事務などの職業を経て真庭市へUターン。樹木医の資格を持ち、現在は木こりを主に仕事をしている。また、勝山町並み保存地区等で苔に関するイベントを主催している。



真庭 今昔物語

2020年
創刊号

この企画では、真庭市内の各所の今と昔を比較しながら、歴史的な変遷や当時の様子を振り返ります。昔「巨人」

「大鵬」「卵焼き」が話題になったように、さしずめ現在は、「タピオカ」「オリンピック」「YouTuber」でしょうか。時代の移り変わりによって、その時の流行りは変化します。そんな時代の中にある真庭の今昔を、写真や貴重な資料を交えてご紹介します。

真庭市榎邑（かしむら）地域に位置する「うえのこうげ」

これまで、色々に姿を変えて、我々にさまざまな景色を見せてくれました。榎邑では、子どもたちから、お年寄りまで地域が一体となって、幸せに暮らせる地域を目指しています。

記事の作成にあたり、榎邑小学校の記念誌をめぐっていると、一九三一年に「上野」という単語が登場しており、「上野に於いて児童と青年団連合体育会開く」という記載がありました。現在の榎邑小学校はグラウンドも大きく拡張されていますが、以前の運動場は小さく、体育会の際は、五〇〇メートルほど坂を上がった「うえのこうげ」

で行われていました。

現在は地域のお祭りの舞台になったり、桜が咲き誇ったりしています。以前の姿は全く違うものでした。

一九四二年に「うえの」の開墾作業が行われ、一九六〇年代には檜の県苗、一一〇〇万本を「うえのこうげ」に苗圃を作り、出荷していました。

一九七〇年代に入ると、一九六五年に植え付けた果が、立派に育ち、観光栗園が誕生。およそ、六ヘクタールに

一九六〇年代、榎邑上野の県苗圃



①榎邑県苗圃 桧苗一千百万本を来春は出荷させようと榎邑上野の県苗圃では今消毒や除草の最中です。

及ぶ栗園は、県外からの注目度も高く、行楽地として軌道にのっていたことの一端が垣間見えます。

一九八五年に「フルーツ・ふれあいの里」の植栽が行われ、リンゴやサクランボ、ブルーベリーなど、五六〇本の苗木が久世町民の手によって植えられました。

一九九〇年代に入ると、久世町内の保育園児や幼稚園児を招待し、リンゴ狩りを楽しんでもらいました。

その後、中国横断自動車道が完成し、二〇〇五年、久世町は真庭市として合併を迎えました。

六ヘクタールの栗園 一九七〇年代



『フルーツ農園の植栽の様子』



現在の「うえのこうげ」は、地元の地域団体「榎の木会」が菜種を植栽し、春には桜と菜の花のコントラストが、鮮やかに彩ります。その菜種は油として搾油されたあと、商品化されています。天ぷらを揚げる際には、おいしく仕上がるのでおすすめです。

その時代ごとに、流行り廃りはありますが、地域に根ざして、そこに存在し続けるものもあります。



これまで、様々な変遷を経て、地域に根づいてきた「うえのこうげ」。これからも地域のシンボルとして、真庭市の、そして桧邑地域の移り変わりを見守ってくれることでしょう。

現在の桧邑地域では、うえのこうげの向かいに、一万円札や紙の原料となる「三桧（みつまた）」を地域全体で植栽し、順調に成長しています。以前は「三桧の郷」として名を馳せた桧邑。現在はミツマタ栽培に取り組

んでいた昔を懐かしむだけではなく、昔以上に、地域全体が一体となってミツマタの再興に尽力しています。桧邑地域は人とのつながりを大事にしながら、ミツマタの花が咲き誇る日を心待ちにしています。（協力隊 寒川英）



次はあなたの地域の今と昔を
振り返ります。

👉 桧邑地区の活動の様子

真庭の昼食から

真庭の人ってお昼ご飯、何を食べているの？興味があります。
他のおうちのお昼ご飯、覗いてみたくないませんか？覗いてみたい。
協力隊オヤナギがあなたのおうちのお昼にお邪魔します。



三色丼とけんちん汁
ほんと美味そうだなあ～

こんにちは！協力隊オヤナギです！
さあさあ、始めました！わたしがお送りする『真庭の昼食から』
こちらの企画、真庭で暮らすさまざまな人たちの普段の昼食におじゃまし、その風景から真庭らしさ、岡山らしさを探してみたり、しなかったりするのんびり企画なんです笑。
では、さっそく行ってみましょう！
記念すべき第一回目にお邪魔するのは銘菓『二万三千石』でおなじみの勝山の町並み保存地区にお店を構える『きくや菓舗』さんです。
はい、わたしオヤナギのご近所さんでおかずをいただいたり大変お世話になっております。
わたし飲食業界が長かったので味にはうるさいのです。
しかし、そのおかずがすごく美味しくて、今回ぜひにとお願ひさせていただきました。



これがひらの酢の物ですか！！
岡山の文化なのですね～

するのは恐縮ながら大変楽しみです。
今日は店頭の美味しそうな和菓子を横目に作業場に隣接した台所でいただきます！
出てきたのは、鶏と卵のそぼろに緑が映える三色丼、ゴボウやレンコンの根菜ゴロゴロけんちん汁、いい感じの白菜とあげの煮浸し、そして魚の酢の物？でした。
この酢の物はなんですか？と聞いたところ『ひら』だよとサラッと教えてくれました。
なんでも小骨がものすごく多いそうです。
それにしても、ひら？今まで聞いたことない魚だなぁと調べてみると・・・。
なんと！この『ひら』岡山でしか食べられていない魚でした！これにはきくやさんもびっくり（笑）
この『ひら』という魚はニシン科の魚で、姿形がニシンにそっくり。味は美味ながら、小骨が多く、調理するのに苦労することから岡山では「ひらの味、小骨がなければ献上魚」と古くから言われていたようです。
そもそもこの『ひら』という魚を食べる文化が岡山以外に無いことや、岡山は鰯の調理に使われる技術「骨切り」が魚屋さんや飲食店さんにしっかり根付いていることから、ひ



きくや菓舗（創業昭和十三年）
住所…真庭市勝山二二〇
営業時間…午前十時～午後六時頃
定休日…第一・三日曜日
オヤナギのオススメ菓子…浮島

らは岡山でしか食べられていないようです。
味は酢の物なのでさっぱりしていますが、白身の割にはしっかりとした旨味でごはんのお供だけではなくお酒にも合いますな（笑）
酸味も尖っていないくてさすがの味付けでした。
きくやの女将さんと大女将さんとテレビでやっていた駅弁甲子園なるイベントを見ながら「タコ飯にするなら活タコじゃないと美味しくない」とか「うつぽは一度は食べてみたいねえ」とか大いに盛り上がったきくやさんの食卓でした。
では、今回はこのへんで。
きくやさんごちそうさまでした！
（協力隊 小柳堅策）

つれづれなるままによ／はら

「空き家問題って？」

空き家に関しては、人口の転入・転出超過と違って全国どこも増加傾向にあり、各地で共通の課題となっています。

ところで、そもそも「空き家問題」って何なのでしょう。

空き家対策に関連した法律としては、「空家等対策の推進に関する特別措置法」が平成二十六年に成立、翌年施行されています。この法律、内容としては、空き家が周りの迷惑にならないように所有者はちゃんと管理しなきゃいけませんよ、行政のほうは所有者の適切な管理を促すための作戦を立てましょうね、で、いよいよ危ないものは行政のほうで何とかすることも考えてね…というもので、付記的に空き家・跡地の情報提供や「利用のために必要な対策を講じる」努力義務が設けられているだけです。空き家の「利活用促進」なんてことにはほぼ触れていません。つまり、法律上は空き家であること自体が問題なわけではなく、たとえ空き家であっても所有者が管理さえちゃんとしていればそれ以上の責任を追及されることはないわけなのです。ついでにいうと空き家の調査についても同様で、対象となる空き家の実態確認、および所有者とその意向を把握することが目的であり、これらに関しては国交省・総務省からの市町村等が計画・実施するものという指針が示されています。

したがって、本来空き家調査は第一義的には地域の危険排除のために行うものであって、かつ実行主体は市町村であり、収集した情報は空き家対策と所有者（管理者）の責任

意識を育てるための内部情報として扱われるべきものだとということになります。

では、どうして「空き家問題」↓「利活用を考えよう」という構図ができている（よくない言い方をすればすり替わっちゃってる）のでしょうか。

そもそも、建物所有者には周囲に迷惑がからないよう管理する義務もあるかわりに、売ったり貸したり利用したりということに関しては自由に決められる権利があります。当たり前ですが、空き家だから、あんまり使っていないようだからといって、所有者を押しつけて他人が勝手に「利活用」することはできません。

一方で、建物はみんなが住む町の利便性や景観構築の重要な要素であり、住みよいまちづくりのためには「適正な場所に」「適正な建物」「適正な状態で」「適正な使われ方で」存在することが大切です。

その点からすると、もし、「この建物、こういう使い方ができればこの街の利便性が向上するのになあ」という物件が調査の結果空き家（遅まきながら「空き家」の定義というのは、管理がちゃんとされているようがいまいが「居住その他に使用されていないのが常態である建物とその敷地」です。法律的には）であればかつてラッキー、もしも所有者の同意が得られて活用できれば地域の活性化に役立てるじゃん…と考えたほうが、「空き家が多い、危機管理対応どうしよう…所有者がちゃんと管理しろよ」なんていうよりよっぽど前向きでいいですよ。

空き家の利活用問題を考えるうえで重要なのは、地域に住む人たちが自身が、住みよいまちづくりのために「こういうまちにしたい」、そのために「ここにこういうものがあればいいなあ」という絵を描き、実現のためのやり方を所有者や行政と話し合う、行政は住む人たちの意向を反映したマスタープランを策定し法令上の制限緩和や補助制度を整備する、といった連携が必要なのです。

調査を行うにしても、その先の利活用、さらにそれを通じた地域の活性化を目指すのであれば、「対策や調査は行政の仕事だから」とか、「住民の問題だから地域であるいは所有者自身で考えて」ではいつまでたっても話は進みません。さらに調査の過程でこの家が空き家かどうかを論じてみたり、空き家の数や比率がどうこういうのは全く…とは言いませんが大きな目的からすれば、ほぼ意味のないことです。

昨年、各地域の住民会が実施した空き家調査、せっかくみんなが貴重な時間をかけてやったのですから、資料提出だけにとどめることなく、住む人たちによるまちづくりの議論↓実行構想に広がり、行政のほうはその動きを施策や制度面でサポート、公的助成・補助や民間投資が有益な発展の循環を生み出す、という良好な連携関係と実際の進展につなげて行きたいですね。

（協力隊 吉原啓介）

ありがとう 大森繁隊員 寒川英隊員

今年度で卒業を迎える大森隊員と寒川隊員に3年間のありがとうの手紙を交換してもらいました！

また、着任から卒業までの活動中のメモや思い出の品を大公開！なかなか見られないマル秘な部分をお見せします。

大木 十人

僕と大森さんは協力隊の同期として
着任しましたね。
大森さんは実家が老舗の自転車屋さんで、
メンテナンスもこなす知識豊富で、よく
虫を愛する「虫博士」。天は二物を与えずとは
よく言えたものですが大森さんにほどや
あつはまらないようです。おまけに、内面的にも、
虫も殺さないうえに、総やがなびで、いつも
柔和な表情で我々を包んでくれます。
特に自転車や虫の知識においては、右に出る
ものはおらず、よく僕の疑問にも答えてくれました。
見慣れない虫を見かけたら、写真を撮り、大森さんに
尋ねる。おかげで虫に詳しくなりました。
僕も野外での活動当初、イベントの際に虫をつけるべき、
ハチ科築巢、様々なアドバースをもらいました。
おかげでトラウマもなく活動を行うことができました。
これまで、大森さんの柔和な表情と、それとは裏腹な
的確なアドバースに幾度となく助けられました。
ありがとうございました！

寒川英

Laiss

寒川止へ

寒川さんへ
協力隊に着任した当初は見た目の雰囲気から似ているか
が二人は兄弟かな?と密にいじられて楽しかったですね。
今ではすっかり顔が濃々しくなり、目標に向かって着実に
進んでいる素晴らしいと思います。
真庭で自然観察会をする中で、柳色を訪ねた時に
「寒川さんの都合が付かず、いないと寂しい」と地元
子供たちが残念がっていたのが2年前の話です。
二、三年前、柳色の人と話をすると必ず寒川さんの話題に
なり、もちろん柳色の顔になっているなあという協力隊の
同期として話りに思います。
かえら遊び隊の話をよくしてくれたのですが、いつも嫌し
そうにしてますね。また遊び隊の話をしてくれた所を褒めた
しいです。
半年度以降も野外で楽しく遊べるような事を考えてい
るので、また一緒に遊びましょう。
3年間、ありがとうございました!!
大森 繁

烁 蟹

[illegible]

着任。経験。

できる地域を～
「ノーパーク」作り

或と連携しながら定期的なイベント企画
回どんぐり広場をフィールドにしたイベントを企画
或の小学校と連携しながら定期的な
或の情報発信

○ 7月21日
- 坂井先生に挨拶し、
MIT - 9時頃、T2へ入る
午後授業
大講

真庭市地域おこし協力隊

隊員紹介

(令和二年三月現在)



寒川 英
(さむかわ たけし)
東京都出身



大森 繁
(おおもり ひげる)
岡山市出身



木藤 千春
(きどう ちはる)
大阪府よりUターン



大岩 功
(おおいわ いさお)
大阪府出身



吉原 啓介
(よしはら けいおけ)
埼玉県よりUターン



西本 浩史
(にしもと ひろふみ)
北海道よりUターン



小柳 堅策
(おやなぎ けんさく)
新潟県出身



関 雅之
(せき まさゆき)
東京都出身



駒場 伸太郎
(こまば しんたろう)
東京都出身

創刊にあたって

我々、真庭市地域おこし協力隊は活動をしている中で「今、どんな活動をしているの?」と聞かれることがよくあります。もちろんその場で説明をさせて頂くのですが、活動のすべてをお伝えすることはなかなかできず、また、他の隊員の活動を紹介するまでには至っていません。この冊子で我々の活動を紹介しようと考えましたが、セルフプロモーションだけになってしまつては協力隊の意義やコンセプトが変わってしまつてしまうと考えました。ならば、協力隊活動を行っている中で出来た「縁」、その地域の変容や市民の皆様の想いを載せることで、読んで下さる方に我々の活動をお見せし、活動を届けることが出来ると考えました。

まずは、この冊子を手にとってもらう事、興味をもってもらふこと、そして、記事を楽しむ読んでもらえるように誌面デザインや内容にこだわりました。とは言っても、冊子を作ることに限っては素人です。しかし、ここは挑戦することを選びました。協力隊活動と同じように、まずはやってみよう、やればきっと何かが見えてくるはずだ!と言い聞かせ、創刊まで辿り着きました。創刊にあたり、取材にご協力頂いた皆様、アドバイスを下さった皆様、この場を借りて感謝申し上げます。本冊子にありがとうございます。

本冊子を通じて、たくさんの方に、たくさんの方の想いが届きますように。

(真庭市地域おこし協力隊 西本浩史)

ピオネ Pione

「ピオネ Pione」は真庭市地域おこし協力隊員、真庭市交流定住センターが
共同で作成している冊子です。

「ピオネ PIONE」は黒ぶどうの一種「開拓者」という意味のイタリア語に由来します。

真庭市名産のピオーネのように真庭市民（パイオニア達）と

真庭市地域おこし協力隊が力強く大きな一房となることを願い、

そして、本冊子を通して真庭のパイオニア達や真庭市地域おこし協力隊の活動が

多くの方に届きますように。

ピオネ PIONE（真庭市地域おこし協力隊通信）Vol.1 創刊号 発行／2020年3月11日

発行元／真庭市地域おこし協力隊 <https://www.facebook.com/maniwa.kyouryoku/>

協力・監修／真庭市交流定住センター <https://i-maniwa.com/area/koryu/>

○本誌からの写真・文などの無断転載を禁じます。

↓真庭の素敵な情報はここから↓



<COCO真庭 ここまにわ>

「真庭の暮らし・人」の掲載サイト。
真庭市内での住まい探し、仕事など
移住支援の紹介もしています。



ManiColle

< マ ニ コ レ >

真庭のイベントコレクションサイト
「週末どこ行こう？」
「何か面白いイベントはないかな」
などなど、情報満載。

